

報道各社の皆様

公益社団法人 大阪府精神障害者家族会連合会（通称 大家連 だいかれん）
会長 倉町 公之
公印省略
〒540-0006 大阪市中央区法円坂 1-1-35
アネックスパル法円坂 A棟4階
TEL 06-6941-5797/FAX 06-6945-6135
E-mail info@daikaren.org

大阪市北区心療内科クリニック 放火殺人事件報道についてお願い

12月17日に大阪市北区の雑居ビル内のクリニックで25人の方が命を落とされた放火殺人事件の報道にふれて、犠牲者の方々がどれほど無念であったか、ただご冥福をお祈りするばかりです。

【地域の当事者・家族の思いにご理解を】

事件報道の直後から、精神障害者を持つ家族や当事者から次々と不安と心配の声が寄せられてきました。「通院歴があると報道されるだけで身の縮む思いだ。怖くてテレビをつけられない。」「自分たちはいつか怖いことをする人たちだとおもわれる。」などの動揺が伝わってきました。昨今は精神疾患と障害を理解するための好意的な取材による番組が制作されるなど、以前より社会的な理解も進みつつあります。

ですが、精神疾患と事件のつながりの報道のたびに、前に進み始めた流れが逆流し、当事者や家族は「やっぱり地域にいるのではなく入院していてくれないと。」という無言の圧力を感じて辛く緊張してひっそり暮らすことを余儀なくされてしまいます。当事者たちの病状を左右してしまうことにもなりかねません。肩身の狭さで精神障害者や家族が追い詰められることがあってはなりません。つきましては以下について、切にお願い申し上げます。

1. 精神疾患と障害への正しい理解による報道を

事件と、精神疾患の安易な関係付けのないよう、精神疾患と障害の正しい理解に基づいて、慎重に正確な取材による報道を切にお願いいたします。

ソフト面では精神疾患と障害への無理解と偏見、いまだ十分とは言えない地域支援、孤立しがちな現実などの背景についても、報道にたずさわる皆様の冷静な取材と究明と理解をお願いしたいと思います。

「障害があっても地域で当たり前暮らすことができる」共生社会を進めるために、報道に携わる皆様には、精神疾患と障害を持つ人たちと、地域医療と当事者家族の地域の暮らしに優しい目を向けていただくことができるよう念じて、ここにお願いする次第です。

2. 安全性をふまえたビル管理と構造の対策につながる、取材と原因究明の報道を

この度のような悲劇を繰り返さないためには、まずハード面で複数の避難口、スプリンクラー設置などビル構造の改善など多方面からの検証と対策が進むよう慎重で多面的な検証報道を切にお願いする次第です。この事件の恐怖から通院を控えることにならないよう、地域で偏見なく安心して医療を受けることができることを願って、報道機関の皆様にご理解をお願いする次第です。